



Cisco ACI vPod の概要

- [About Cisco ACI vPod \(1 ページ\)](#)

About Cisco ACI vPod

インフラストラクチャの要求、柔軟性、コスト削減を達成するために、ハイブリッドデータセンターモデルを採用する組織が増えてきています。こうした組織では、仮想プライベートクラウドやその他の社内 IT リソースを含めたさまざまなテクノロジーを、リモートロケーションと組み合わせて利用しています。リモートロケーションには、ホステッドデータセンター、サテライトデータセンター、マルチクラウド環境などがあります。

しかし、ハイブリッドを導入するためには、ロケーションに関係なく、ワークロードの一貫した管理とポリシーが必要になります。また、ディザスタリカバリのサポートや、データセンター間で負荷を軽減するための機能も必要です。その一方で、互換性のあるハードウェアや、新しい機器を追加するためのスペースが不足している組織もあります。

Cisco Application Centric Infrastructure (ACI) Virtual Pod (vPod) を導入すれば、こうした課題を克服して、Cisco ACI のファブリックを仮想的にさまざまなリモートロケーションに拡張することができます。

Cisco ACI vPod とは

Cisco ACI vPod は、Cisco APIC リリース 4.0(2) の一般提供で導入されたものです。これはソフトウェアのみのソリューションであり、VMware ESXi ハイパーバイザを実行できるサーバが少なくとも 2 台存在する場所に展開することができます。Cisco ACI vPod と、そのコンポーネントである仮想スパイン (vSpine)、仮想リーフ (vLeaf)、および Cisco ACI Virtual Edge は、ESXi ハイパーバイザ上で実行されます。

Cisco ACI vPod により、物理リーフがない場所で Cisco ACI Virtual Edge を使用できるようになります。オンプレミスデータセンターの場合と同様に、リモートロケーションにある各 Cisco ACI vPod で Cisco ACI Virtual Edge のインスタンスを最大 8 個使用できます。

Cisco ACI vPod は、物理ポッド、オンプレミスポッド、またはマルチポッドとポッド間ネットワーク経由で通信します。物理ポッドまたはマルチポッド、ポッド間ネットワーク (IPN) 接続、および Cisco ACI vPod の設定は、Cisco Application Policy Infrastructure Controller (APIC)

で行うことができます。Cisco ACI vPod のコンポーネントの展開には、Cisco ACI vCenter プラグイン、スクリプト、または PowerCLI を使用できます。

Cisco ACI vPod の利点

Cisco ACI vPod をインストールすると、それを Cisco APIC と組み合わせて使用することで、リモート ロケーションに Cisco ACI ファブリック ポリシーを適用することができます。

Cisco APIC により、オンプレミス データセンターとリモート ロケーションに、ワークロードの一元管理機能が提供されます。オンプレミスとリモートの両方のロケーションで、ポリシーを簡単に、かつ矛盾なく適用することができます。

Cisco ACI vPod ソリューションがもたらす柔軟性、拡張性、一元管理により、次のような使用事例のシナリオを活用できるようになります。

- Cisco ACI ファブリックをベアメタル クラウドに拡張する
- Cisco ACI ファブリックをブラウンフィールドの展開に拡張する
- Cisco ACI ファブリックをコロケーション データセンターに拡張する
- シスコ以外のハードウェアから Cisco ACI ファブリックにワークロードを移行する

詳細情報の入手先

詳細については、Cisco.com で『*Cisco ACI Virtual Pod Release Notes*』を参照してください。